

4 男女共同参画ふくしまプランの推進

(1) 計画の進行管理

男女共同参画ふくしまプランの具体的な推進に際しては、福島市男女共同参画推進条例第9条3項の規定に基づき、毎年この単年度報告を作成し、進捗状況の把握と適切な進行管理に努めてまいります。

また、進行管理にあたっては、PDCAサイクルに基づき行うこととし、個別事業の進捗状況と計画全体の評価の両面から点検・評価を行い、その結果を公表していきます。

なお、単年度報告のPDCAサイクル各部は、以下のとおりです。

① 意識改革をめざす啓発活動の推進 (施策)

ア 情報紙の発行 (事業名)

- 男女共同参画について理解を深めてもらうため、男女の市民参画による情報紙を発行する。 (事業の内容)

イベント名	男女共同参画情報紙「さんかくBook」第1号の発行					<p>↑</p> <p>P</p> <p>(H28~H32の事業計画)</p>
対象	市政だより折込による全戸配布					
参加人員	—					
実施時期	3月					
実施場所	—					
実施結果・効果	<p>これまでの男女共同参画情報紙「しのぶびあ」を「さんかくBook」へ名称変更し、大幅な内容の見直しを図った。多様で柔軟な働き方を提供する市内企業三社の先進的な取組を取材したほか、県内唯一の男性家庭科教諭である学法福島高校の末松先生にお話を伺い、家庭科の魅力や男性の家庭生活への参画について、取材内容を掲載した。107,300部作成。全戸配布を行ったほか、市の関係各施設に配置するなどし、市民の男女共同参画意識の醸成を図った。</p>					<p>←</p> <p>D</p> <p>(H28事業実施報告)</p>
評価	A					<p>←</p> <p>C</p> <p>(Dに対する評価)</p>
A評価に向けた課題と今後の取組 (本年度計画)	<p>平成29年度は、新たに市民編集員2名に参画いただき、編集会議を重ねながら、一層内容の充実を図るとともに、より効果的な啓発に努める。</p> <p>平成29年度作成予定部数：107,300部</p>					<p>←</p> <p>A</p> <p>(H29~事業実施計画)</p>
年次計画 (評価)	28	29	30	31	32	
	(A)					→

(2) 単年度報告の見方

- ① 計画に記載がある「施策」・「事業名」・「事業の内容」を載せています。
- ② 平成28年度に実施した事業の「イベント名」・「対象」・「参加人員」・「実施時期」・「実施場所」を記載しています。該当がない項目には、「―」を記載しています。
- ③ 平成28年度に実施した事業の実施結果及び事業効果を記載しています。
- ④ 平成28年度に実施した事業の評価を「A・B・C・D・―」により行います。
(※評価基準は6ページを参照)
- ⑤ A評価に向けた課題と、課題解決に向けた平成29年度以降の取組を記載しています。
- ⑥ 事業に関する写真・資料等を掲載しています。
- ⑦ 平成29年度の所管課を記載しています。

① 意識改革をめざす啓発活動の推進 (施策)
 ア 情報紙の発行 (事業名) ①
 ○ 男女共同参画について理解を深めてもらうため、男女の市民参画による情報紙を発行する。 (事業の内容)

②	イベント名	男女共同参画情報紙「さんかくBook」第1号の発行					⑥
	対 象	市政だより折込による全戸配布					
③	参 加 人 員	―					⑦
	実 施 時 期	3月					
④	実 施 場 所	―					⑦
	実 施 結 果 ・ 効 果	これまでの男女共同参画情報紙「しのぶびあ」を「さんかくBook」へ名称変更し、大幅な内容の見直しを図った。多様で柔軟な働き方を提供する市内企業三社の先進的な取組を取材したほか、県内唯一の男性家庭科教諭である学法福島高校の末松先生にお話を伺い、家庭科の魅力や男性の家庭生活への参画について、取材内容を掲載した。107,300部作成。全戸配布を行ったほか、市の関係各施設に配置するなどし、市民の男女共同参画意識の醸成を図った。					
⑤	評 価	A					⑦
	A評価に向けた課題と今後の取組 (本年度計画)	平成29年度は、新たに市民編集員2名に参画いただき、編集会議を重ねながら、一層内容の充実を図るとともに、より効果的な啓発に努める。 平成29年度作成予定部数：107,300部					
年次計画 (評価)		28	29	30	31	32	所管課 男女共同参画センター
		(A)					

(記号の種類と意味)

種類	記号の意味
→	継続して取り組む事業
●	新規に取り組む事業
○	単年度のみ取り組む事業
―	年次計画なし
()	評価

(3)

事業の評価基準

評価	評価基準		
	結果を数値化できる事業	結果の数値化が困難な事業	
	達成度で評価 (講座・研修・調査・登用等)	通年で実施する事業 (広報・啓発・相談・支援等)	短期間で実施する事業 (イベント・協議会・懇談会等)
A	8割以上を達成 ※目標値が設定されている場合は達成していること	事業内容が広く対象に周知又は利用等されており、課題や改善点がほぼない状態 (継続実施)	事業実施の結果、市及び対象者が有益な効果を得ることができ、課題や改善点がほぼない状態 (継続実施)
B	6割以上を達成	事業内容が概ね対象に周知又は利用等されているが、課題や改善点もある状態 (一部変更実施)	事業実施の結果、市及び対象者が一定の効果を得ることができた一方、課題や改善点もある状態 (一部変更実施)
C	3割以上を達成	事業内容が一部の対象にのみ周知又は利用等されており、なお一層の改善を要する状態 (一部変更実施)	事業実施の結果、市及び対象者が一部の効果を得るに留まり、なお一層の改善を要する状態 (一部変更実施)
D	3割未満の達成	廃止を含め、事業の大幅な見直しを要する状態 (変更・廃止検討)	廃止を含め、事業の大幅な見直しを要する状態 (変更・廃止検討)
— (未実施)	事業を実施しなかった(できなかった)場合に使用 【実施結果・効果】 事業を実施しなかった(できなかった)理由を記載 【A評価に向けた課題と今後の取組(本年度計画)】 本年度に実施予定がある場合は記載		
勘案する項目 (複数項目で判断)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に対する現在値 ・前年度対比、伸び率 ・調査結果、調査回収率 ・登用率、参画割合 ・定員に対する参加者数、応募者数、修了者数 ・アンケート結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・市政だよりへの掲載、折込 ・地区だよりへの掲載 ・市ホームページへの掲載 ・需要と供給のバランス ・事業の予算化の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者(参加者)数 ・開催回数 ・意見の聴取と事業化